

官報

號外 昭和二十年十二月七日

○第八十九回 帝國議會 貴族院 議事速記 第六號

昭和二十年十二月六日(木曜日)午前七時七分開議

議事日程 第六號

昭和二十年十二月六日
午前十時開議

第一 國民貯蓄組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 裁判所構成法戰時特例廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第三 戰時民事特別法廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第四 戰時刑事特別法廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第五 判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第六 鐵道敷設法戰時特例廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第七 入營者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第八 昭和十二年法律第七十八號廢止法律案(政府提出) 第一讀會

第九 映畫法廢止法律案(政府提出) 第一讀會

○議長(公爵德川國順君) 諸般ノ報告

ハ御異議ガナケレバ朗讀ヲ省略致シマ

(參照)
昨五日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
入營者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案可決報告書
昭和二十年法律第七十八號廢止法律案可決報告書
映畫法廢止法律案可決報告書
同日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

國民貯蓄組合法中改正法律案
裁判所構成法戰時特例廢止法律案
戰時民事特別法廢止法律案
戰時刑事特別法廢止法律案
判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案
鐵道敷設法戰時特例廢止法律案
同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第八十九回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

情報局情報官 久山 秀雄君
遞信院總務局長 鈴木 恭一君
遞信院郵務局長 小池 行政君
遞信院工務局長 篠原 登君
遞信院貯金保險局長 岡井彌三郎君
遞信院電波局長 宮本 吉夫君
遞信院電氣通 林 一郎君
信復理局長 林 一郎君

大藏省國稅事務政府委員 今井 一男君
大藏省國民貯蓄局長 今井 一男君

大藏省物價局長 工藤昭四郎君
大藏省參事官 加藤 八郎君
同 木内 信胤君
專賣局長官 植木庚子郎君
厚生省管事務政府委員 宮脇 參三君
厚生省健民局長 勝俣 稔君
厚生省臨時防疫局長 勝俣 稔君

○議長(公爵德川國順君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ閉キマス、請假ノ件ニ付御諮リヲ致シマス、伯爵柳原義光君病氣ニ付會期中請假ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川國順君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川國順君) 日程第一、國民貯蓄組合法中改正法律案、政府提出、第一讀會、由谷政務次官

國民貯蓄組合法中改正法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日

内閣總理大臣 男爵幣原喜重郎
內務大臣 堀切善次郎
大藏大臣 子爵澤澤 敬三

國民貯蓄組合法中改正法律案

○政府委員(由谷義治君登壇) 大藏大臣ガ只今衆議院豫算總會ニ出席シテ居リマスノデ、私カラ只今議題トナリマシタ國民貯蓄組合法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明スルコトヲ御許リ願ヒマス、戰後財政經濟ノ運営ニ當リマシテハ、惡性「インフレーション」ノ發生ヲ防止致シマスコトノ肝要ナルハ多言ヲ要セザル所デゴザイマス、之ガ爲ニハ各般ノ施策ト並行シ、戰後ニ於キマシテモ自主的運營ヲ主眼トスル國民貯蓄組合法ヲ存續シ、以テ國民貯蓄ノ増強ニ力ヲ致サネバナラス次第デアリマシテ、國民貯蓄組合法中戰時ナル文言ヲ削除スル爲、茲ニ本法律案ヲ提案致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ國民貯蓄組合法中改正法律案ハ、入營者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案外三件ノ特別委員ニ併記セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田重幸君 賛成
○議長(公爵德川國順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川國順君) 御異議ナイト認メマス
○議長(公爵德川國順君) 過日總理大臣出席ナキ爲、二瓶君及ビ中山君ノ質疑ニ對スル答辯ガ保留サレテ居リマシタガ、本日總理大臣ヨリ、答辯ノ爲發言ヲ求メラレマシタ、此ノ際許可ヲ致シマス、幣原内閣總理大臣
〔國務大臣男爵幣原喜重郎君登壇〕
○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 過日二瓶君ヨリ、農村ニ對シテ私ガ如何ナル關心ヲ持ツテ居ルカト云フコトノ御質疑ガアツタノデアリマスガ、當時私ハ此ノ議場ニ居リマセヌ爲ニ、御答ガ保留サレテ居リマシタ、茲ニ御答ヲ申上ゲマス、農村ハ我が國、殊ニ今後ノ我が國ノ根幹ヲ成スモノデアリマシテ、政治、文化、經濟等各般ニ互ツテ重大ナル使命ヲ持ツテ居ルモノデアリマス、私ハ農村ノ健全ナル發達ハ即チ我が國ノ再建デアルト考ヘテ居ルデアリマス、此ノ點ニ出來ルダケノ努力ヲ盡シタイト考ヘテ居ルデアリマス、就中農村ハ國民生活ノ安定上最モ重要ナル食糧問題ノ解決ノ鍵ヲ成スモノデアリマスルカラ、農業生産ノ増強ノ爲ニ、供出制度ノ合理化、農業資材ノ確保、肥料ノ供給、必需物資ノ配給等ニ付キマシテ萬全ヲ期スルト共ニ、農地制度ノ根本的ノ改革ヲ圖ル所存デアリマス、ソレカラ中山君カラ在外同胞ノ窮狀ニ關スル處置ニ付キマシテ御質疑ガアツタノデアリマス、終戦ニ伴ヒマシテ北朝鮮、滿洲等ニ於ケル在外同胞ノ窮狀ハ、誠ニ同情痛心ニ堪ヘヌ次第デアリマス、政府ニ於キマシテハ、是等ノ同胞ノ引揚ノ促進ニ關シテ再三聯合軍ノ司令部ニ對シマシテモ交渉ヲ重ね、有ラユル方面ニ互ツテ努力ヲ續ケテ居ルノデアリマスルガ、現地ノ狀況ニ關スル正確ナル情報ヲ入手シ得ナイ

狀況デ、誠ニ憂慮ニ堪ヘマセズ、此ノ點、遺憾ニ在ズル次第デアリマスガ、政府ト致シマシテハ、今後本問題ノ解決ニ一層努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、尙今日迄分リマシタル情報ニ付キマシテハ、追ッテ皆様ニ御報告申上ゲタイト考ヘテ居リマス、ソレハ今丁度オイデニナツテ居リマセスケレドモ、復員次官カラ御説明ヲスルヤウニ取計ラフ私ハ積リデ居リマス

○中山本一君 只今總理大臣カラ御答辯ガアリマシタケレドモ、此ノ重大問題ニ對シテ只今ノ御答辯デハ、我々國民ハ満足致シ兼ネルノデアリマス、復員次官ノ御説明ヲ承リマシテ、其ノ上デ又御尋ヲセネバナラヌカト思ヒマス、ソレ迄重テ御尋スルコトヲ留保シテ置キマス、御承知ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川國胤君) 宜シウゴザイマス

○議長(公爵徳川國胤君) 日程第二裁判所構成法戰時特例廢止法律案、日程第三、戰時民事特別法廢止法律案、日程第四、戰時刑事特別法廢止法律案、日程第五、判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案、政府提出第一讀會、是等ノ四案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川國胤君) 御異議ナシト認メマス、岩田司法大臣

裁判所構成法戰時特例廢止法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日
內閣總理大臣 男爵幣原喜重郎

司法大臣 岩田 宙造
內務大臣 堀切善次郎

裁判所構成法戰時特例廢止法律案
裁判所構成法戰時特例ハ之ヲ廢止ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法第一條ノ二ノ規定ニ基キ發シタル勅令ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第二條、第九條及第十條ノ規定ハ本法施行後ト雖モ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第三條ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第四條乃至第六條ノ規定ハ本法施行ノ際舊法ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件又ハ抗告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

戰時民事特別法廢止法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日
內閣總理大臣 男爵幣原喜重郎
司法大臣 岩田 宙造

戰時民事特別法廢止法律案
戰時民事特別法ハ之ヲ廢止ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法第三條、第五條及第十四條乃至第二十二條並ニ昭和二十年法律第九

號附則第三項ノ規定ハ本法施行後ト雖モ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第十條ノ二及第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ際裁判所構成法戰時特例ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第十一條第二項及第十二條第二項ノ規定ハ本法施行ノ際舊法第十一條第一項又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依リ現ニ停止又ハ中止中ノ強制執行又ハ破産手續ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

戰時刑事特別法廢止法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日
內閣總理大臣 男爵幣原喜重郎
司法大臣 岩田 宙造

戰時刑事特別法廢止法律案
戰時刑事特別法ハ之ヲ廢止ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前舊法第一章ニ規定スル罪ヲ犯シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ノ規定ニ依ル

舊法第十九條ノ二、第二十三條第三項及第二十五條ノ規定並ニ舊法第三十一條ノ規定中舊法第二十三條第三項ノ規定ヲ準用スル部分ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第二十七條ノ規定ハ本法施行ノ

際裁判所構成法戰時特例ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日
內閣總理大臣 男爵幣原喜重郎
司法大臣 岩田 宙造

判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日
內閣總理大臣 男爵幣原喜重郎
司法大臣 岩田 宙造

第一條 終職ニ付ヒ官吏ノ減員ヲ行フニ際シ司法大臣ハ昭和二十一年三月三十一日迄ノ間ニ於テ判事及檢事二百二十八人ヲ限リ退職ヲ命ズルコトヲ得但シ判事ニ退職ヲ命ズルニハ願ニ依リ場合ヲ除クノ外大審院ノ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ總會ハ大審院ノ判事ノ三分ノ二以上出席シテ之ヲ開キ其ノ決議ハ出席シタル判事ノ三分ノ二以上ノ意見ニ依ル

第二條 裁判所構成法中判事ノ轉所ニ關スル規定ハ昭和二十一年四月三十日迄ヲ限リ之ヲ適用セズ

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣岩田宙造君登壇〕
○國務大臣(岩田宙造君) 只今上程ニ相成リマシタ裁判所構成法戰時特例廢止法律案、戰時民事特別法廢止法律案及戰時刑事特別法廢止法律案ノ三法律

案ノ提案理由ヲ申上ゲマス、右各法律案ヲ以テ廢止セムトスル是等三法律ハ、執レモ大東亞戰爭中司法制度ヲ戰時態勢下ニ置キ、民事、刑事ノ全般ニ互リ司法事務ヲ簡略ニ運営スルコトヲ目的トシテ制定セラレタモノデアリマシテ、戰局ノ推移ニ即應シ、數次ノ改正ヲ經テ今日ニ及ンダモノデアリマスガ、終戰後諸般ノ情勢ガ逐次平時狀態ニ復シツ、アル現在ニ於テハ、右特別法ノ制定ノ理由ハ二應消滅致シマシテ、最早之ヲ維持スル必要ガナイノミナラズ、却テ國民ノ權利ノ保護ヲ全ウスルニ障礙トナル虞ガアリマスノデ、此ノ際之ヲ廢止セムトスルモノデアリマス、是等ノ法律案、殊ニ裁判所構成法戰時特例廢止法律案ガ成立致シマスレバ、二審制度ハ三審制度ニ復歸致シマスシ、又裁判所ノ設立、廢止及ビ管轄區域等ヲ定メルニハ法律ヲ要スルコトナリ、又刑事ニ於ケル裁判所ノ廣汎ナル事物管轄ハ平時ノ狀態ニ復スルコトナルノデアリマス、唯民事訴訟ニ於ケル區裁判所ノ事物管轄ノ限度ニ千圓ハ、現下ノ經濟狀態ニ鑑ミマシテ、尙之ヲ存續セシムル必要ガアルノデアリマス、其ノ他ニモ現行法中尙存續セシムル必要ノアル規定ガ若干アリマスノデ、是等ハ附則ヲ以テ最小限度其ノ效力ヲ維持スル旨規定致シマシタ次第デアリマス、次ニ判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案ノ提案理由ヲ申上ゲマス、本法案ハ終職ニ付ヒ、一般官吏ノ減員ヲ行フニ當リマシテ、其ノ一環トシテ、司法官ニ付テモ減員ヲ行フ必要ガアリマスル處、判事及ビ檢事ニハ、裁判所構成法ニ依リ地位ノ保障ガ

ゴザイマスノデ、退職豫定數二百二十

八人ヲ限リ、一時此ノ保障ヲ撤廢シテ之ニ退職ヲ命ジ、右減員ヲ實行セムトスルモノデアリマス、尙判事ニ付キマシテハ、憲法ニ依リ身分ノ保障モアルコトデアリマス、其ノ精神ハ之ヲ十分ニ尊重シ、取扱ノ慎重ヲ期スル爲ニ、特別ノ法的措置ヲ講ジマシテ、其ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、尙右減員ヲ實施スルトキハ、之ニ伴ヒマシテ、職員ノ配置替ヘヲ行フ必要ガアリマス、判事ノ轉所ノ制限モ一時之ヲ撤廢セムトスルモノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上、速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ御願ヒ致シマス

○子爵秋田重季君 賛成
○議長(公爵徳川圀順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵徳川圀順君) 日程第六、鐵道敷設法戰時特例廢止法律案、政府提出、第一讀會、田中運輸大臣

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和二十年十二月五日
内閣總理大臣 湯野原喜重郎
運輸大臣 田中 武雄

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例ハ之ヲ廢止ス
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣田中武雄君登壇〕
○議長(公爵徳川圀順君) 只今議題トナリマシタ鐵道敷設法戰時特例廢止ニ關スル法律案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、鐵道敷設法戰時特例ハ、大東亞戰爭ニ際シ、緊急ノ必要アルトキハ、鐵道敷設法ノ規定ニ拘ラズ、政府ニ鐵道敷設法ノ豫定線路以外ノモノ、或ハ豫定線路ニシテ豫算ニ計上ナキモノノ調査、敷設ヲ早急ニ行フコトヲ得セシムル戰時法デアリマスガ、戰爭終結ニ伴ヒ、其ノ必要ヲ認メザルコトトナリマシタノデ、之ヲ廢止セムトスルモノデアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ鐵道敷設法戰時特例廢止法律案ハ、是亦入營者職業保障法及國民勞務手帳廢止法律案外八件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○議長(公爵徳川圀順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵徳川圀順君) 日程第七、入營者職業保障法及國民勞務手帳廢止法律案、日程第八、昭和十二年法律第七十八號廢止法律案、日程第九、映畫法廢止法律案、政府提出、第一讀會

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

セヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナシト認メマス、委員長向山男爵

〔左ノ委員長報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ截録ス以下之ニ依リ〕
入營者職業保障法及國民勞務手帳廢止法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和二十年十二月五日
委員長 男爵向山 均
貴族院議長公爵徳川圀順殿

昭和十二年法律第七十八號廢止法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和二十年十二月五日
委員長 男爵向山 均
貴族院議長公爵徳川圀順殿

映畫法廢止法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和二十年十二月五日
委員長 男爵向山 均
貴族院議長公爵徳川圀順殿

○男爵向山均君 只今議題ト相成リマシタ入營者職業保障法及國民勞務手帳廢止法律案、昭和十二年法律第七十八號廢止法律案並ニ映畫法廢止法律案ニ關シマシテ、特別委員會ノ經過並ニ結果ニ付テ報告申上ゲマス、去ル二日及ビ四日ニ本委員會ニ付託サレマシタ右三法律案ハ、三日午前ヨリ昨五日午

後ニ互リマシテ、連日委員會ヲ開キ、各案ニ付政府ノ説明ノ後、審議ヲ行ヒ、執レモ政府提出ノ原案ノ通り滿場一致可決スベキモノト議決致シマシタ、以下政府ノ説明並ニ質疑應答ノ主ナルモノニ付テ申上ゲマス、第一ノ入營者職業保障法及國民勞務手帳廢止法律案ニ付キマシテハ、厚生大臣ヨリ本議場ニ於ケル説明ヲ敷衍セルモノ、即チ國民勞務手帳法運籌ニ關シ、手帳受有義務者ノ種別數、本法ノ效果等ニ付キマシテ説明アリマシタ、政府カラ提出サレマシタ本法ニ關スル參考資料中ノ主ナル點ヲ二、三加味致シマシテ申上ゲタイト存ジマス、本法ハ第七十六議會ノ協賛ヲ經マシテ、昭和十六年三月法律第四十八號トシテ公布、同年十月ヨリ施行、但シ手帳發行ニ關スル規定ハ同年七月カラ施行サレマシタ、手帳受有義務者ハ、技術者十九種、勞務者二百十萬餘、爾來逐年百餘萬ヲ增加致シマシテ、終戰直前ニハ千九萬餘ト相成ツテ居リマス、本法ノ戰爭中ニ果シマシタ效果ト致シマシテハ、從業者ノ恣意ニ依リ移動防止、使用者側ニ於ケル從業者ノ引拔防止、移動及引拔ニ伴ヒマスル貸金昂騰ノ抑制、勞務需給ノ調整、徵用其ノ他緊急勞務需要ノ解決等ガ學ゲテゴザイマス、本法施行ノ前後ヲ通ジテ見テ統計ニ依リマシテ、勞務者ノ移動ノ狀況ニハ顯著ナル開キガ現レテ居リマス、次ニ質疑ニ移リマシテ、一委員ヨリ、手帳ノ效果ノ大ナルコト、他ノ色々ノ手帳、例ヘバ學校ノ通信簿、國民體力手帳、軍隊手帳等ノ效果ノ大キイコトニ鑑ミマシテ、勞務手帳ノ廢止後、之ニ代ルベキモノ、尙進ンデハ本法規定ノ範圍外ノ從業者、例ヘバ女中等ノ手帳ハ、歐米ニ於テハ極メテ有效ニ運用サレテ居ル、我が國ニ於テハ是ガナイ爲ニ、從業者ニモ雇方方ニモ色々不都合ガ生ジテ居ル現状ニ鑑ミマシテ、ヨリ廣キ範圍ノ手帳ノ制定ニ關シテ政府ハ考ヘテ居ラヌカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、趣旨ニハ賛成デアアル、代案ハ只今研究中デアアルケレドモ、只今ノ紙ノ不足其ノ他ノ事情ニ依ツテ、直チニ實行ハ困難ナ旨ヲ答ガアリマシタ、又同委員ヨリ、石炭不足ノ現狀ト勞務關係ニ付キマシテ、關係各省トノ連絡ノ不十分ノ勞務ノ不足ハ主トシテ人ガ足りナクナツテ居ツタケレドモ、終戰後ノ今日ハ人ハ居ル、併シ就職希望者ガ少イ、勤勞意欲ノ不足ノ爲デアアル、現在ノ失業率ノ多數者ハ、離職ニ際シテ多額ノ退職手當ヲ貰ツタコトガ大ナル原因デアアルト思フ、離職ヲ使ヒ切ツタナラバ人ハ出テ來ルデアラウケレドモ、之ヲ漫然ト待ツ譯ニハ行カナイノデ、商工當局ト十分連絡シテ大イニ努力シテ居ル次第デアアル、各省トノ連絡ハ相當能ク行ツテ居ル積リデアアル、又終戰時ニ於ケル炭礦ノ勞務者ハ約六十萬人デアツタガ、九月末現在ハ三十三萬人トナリ、ソレト共ニ華人、半島人勞務者ノ現地ニ於ケル暴動、退出又ハ之ニ依ツテ内地ノ勞務者ガ半島人勞務者ヲ恐ガル、炭礦ニ居ルコトヲ好マナイト云フ理由デアラウ逃出シタリ、新シイ希望者ノ出足ヲ鈍ラシテ居ルノデアアル、山ニ依ツテハ鮮人ノ先山ガ非常ニ澤山居ツタ所デアアル、鮮人、華人ノ歸國ニ伴ヒ、治安モ落著キツ、アルノ

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

鐵道敷設法戰時特例廢止法律案

デ、彼等ガ皆歸レバ十二萬五千「ブラ
ス」一萬、十三萬五千ノ穴方開キマス
ガ、之ニ對シマシテ、本年申ニ六萬人、
來年三月迄ニ七萬人、計十三萬人ノ
募集ニ既ニ著手ヲシテ居ル、此ノ滑リ
出シハ良好ト判斷シテ居ル、六萬人ハ
十二月申旬ヲ目標トシテ居ル、徵用ハ
ナクナツタケレドモ、之ニ代ル、徵集命
令等ノ爲ニ、茲數日間ノ募集狀況ニ依
ツテ、已ムヲ得ザレバ或ハ強權ノ發動
等モ考ヘテ居ル次第アルト云フコト
デゴザイマシタ、又同委員カラ厚生省
ノ三大主要政策、一、國民生活、即チ
衣食住ノ改善、二、國民體力ノ向上、
三、勞務者對策等ニ付キマシテ、具體
的ナ例ヲ色々擧ゲテ、官民共ニ創意工
夫ガ足りナイ云フコトヲ痛歎サレ、
再ビ關係各省トノ連絡ノ改善ヲ強調サ
レマシタ、色々ト御質問ガアリマシタ
ニ對シマシテ、政府委員ハ、榮養ニ付
テ只今大ニ勉強中デアラル、例ヘバ同
一量ノ肉ヲ食ベルニ致シマシテモ、之
ヲ一度ニ食ベズニ、三食ニ食ベレバ、其
ノ榮養ノ價値ハ遙カニ上ナノデアラル、
又住宅ノ改善ニ付キマシテハ、色々實
例ノ御指摘ガアツテ、是ハ復興院ノ方
ト能ク連絡ヲ取ツテ善處シタイ、色々
良イコトノ國民ニ對スル周知ヲ廣ク實
行サレルトコトニ付テ大ニ努メタイト
思ツテ居ル、勞務者ノ對策中、特ニ教
育ノ不足ニハ同感デアラル、考ヘ直ス必
要ガアルト考ヘ、體力檢定ハ制定當
時ハ職力増強ガ目的デアリマシタケレ
ドモ、今日尙別ノ意味カラ大ニ必要
デアリマス、之ノ今迄ノ效果等ニ
付テノ具體的ノ數ノ御質問等ゴザイ
マシタガ、是ハ他日述ベタイト思フ、
又各省ノ間ノ連絡ノ不良、是ハ我が國
ノ役所ノ通弊ノヤウニ考ヘル、例ヘバ
鮮人ヲ歸國サセルトコトハ厚生省ガ受持
ツ、彼等ヲ呼ブ時ニハ外務省ト云フヤ
ウナコトニナツテ居ツテハ、ウマク行
カナイヤウニ考ヘルト云フヤウナ意見

ヲ申述ベラレマシタ、又他ノ委員ヨ
リ職災復興ニ住宅ノ建築ガ非常ニ遅レ
テ居ル、大ナル間ガ出始メテ居ル、物
人共ニ不足シテ居ルト云ツテ、具體例
ヲ擧ゲラレマシテ對策ヲ質サレタニ對
シマシテハ、政府ハ他ノ同様ノ質例ヲ
舉ゲラレテ實情ノ不良ノ狀況ヲ質例ヲ
レマシタ、人及ビ物ノ不足以外ニ市區
改正等ノ計畫ノ未決定ノコトモ原因ノ
一ツト考ヘテ居ル、勞務對策ニ付テハ
石炭ノ場合ト同様ニ重要ニ扱ヒタイト
思ツテ居ル、ト云フ答辯デゴザイマシ
タ、又恩給法改正ニ付キマシテ社會保
險法ノ制定ニ關スル質問ニ付キマシテ
ハ、近ク委員會ヲ設ケテ、此ノ方ハ大
ニ研究シタイト云フコトデゴザイマ
シタ、次ニ徵用制度ノ運営ニ關シマシ
テ非常ニ重要ニ點ガアツタ、例ヘバ異
服屋ノ炭礦ニ入レル、數ノミ揃ヘテ素
人支人ノ區別ヲ無視シタト云フヤウナ
例ヲ擧ゲラレマシテ、專門ヲ重シ
口、強權ヲ用ヒズニ専門家ヲ活用ス
ル、其ノ勤勞意欲ヲ昂メル策ガナイ
デアラウカ、特ニ炭礦夫ニ付テハ、是
ノ兵役ニ就イタル數ガ承知シタイ、又
日本ノ工業ハ、只今ノ各工場ガヒドク
職災ヲ被ツタ狀況等ニ鑑ミテ、將來ハ
工場工業カラ家庭工業ニ移ルト考ヘル
ガ、之ニ對シテ對策ヲ策ハドウデア
ルカト云フ間ニ對シマシテ、職業別
國民登錄ノ活用等ニ依ツテ適材ヲ適
處ニ用ヒルコトニシタイ、將來手工
業ガ多クナリ、人手ヲ多ク要スルヤ
ウニナル結果、多數ノ失業者ヲ此ノ
方ニ吸收スルト云フ結果ニナラウト
考ヘテ居ル、炭礦勞務ノ統計ハ他ノ機
會ニ述ベタイト云フヤウナ答辯ゴザ
イマシタ、斯クシテ討論ヲ經テ採決ニ
入リマシテ滿場一致可決シテ居リマ
ス、次ニ昭和十二年法律第七十八號、
即チ紀元二千六百年記念日本萬國博覽
會抽籤券附回数入場券發行ニ關スル法

律廢止法律案ニ付テ申上ゲマス、政府
委員ヨリ萬國博覽會ノ計畫ノ大要ヲ述
ベラレマシタ後、本事業ノ財政的ニ接
助スル爲ニ政府ノ措置ノ一ツトシテ、
本事業ノ主催者日本萬國博覽會協會ニ
昭和十二年度ニ於キマシテ國庫ヨリ金
五十萬圓ヲ交付シタ、尙本法律ニ依リ
テ抽籤券附回数入場券ノ發行ヲ許可
シ、此ノ發行ノ狀況等ノ話ガアリマシ
タ、日支事變勃發ニ依リ本事業ハ延期
スルニ至リ、尙本年八月大東亞戰終戰
以來ノ現下ノ情勢ニ於テハ、是ガ開催
ノ不可能ニナツタコトニ付テ述ベラ
レマシタ、本法律ノ必要ノ理由ヲ述ベ
ラレマシタ、尙廢止ニ付キマシテ本協
會ガ過去ニ於テ得マシタル入場券ヲ冊
十圓、即チ發賣ノ原價デ以テ買戻スコ
トヲ只今手續進行中デアルト云フ說明
ガゴザイマシタ、本案ハ別ニ質疑モナ
ク、其ノ儘討論ヲ經テ滿場一致可決ス
ベキモノト決シマシタ、最後ノ映畫法
廢止法律案ニ付テ申上ゲマス、政府委
員ヨリ、映畫法ガ本邦最初ノ文化立法
ト致シマシテ重要ナル使命的ヲ以テ
昭和十四年ニ誕生致シマシタガ、此
度聯合國最高司令官ノ要求ニ基キ之ヲ
廢止スルノ已ムナキニ至ツタノデ、本
案ヲ提出スルノ旨ノ説明ガゴザイマシ
タ、詳シクハ速記録ニ譲リマス、質疑
ニ入りマシテ、一委員ヨリ聯合國最高
司令官ノ指令ニ關シマシテ、今迄ノ經
緯ヲ質サレタニ對シマシテ、内務省當
局ヨリ本法廢止ノ経緯ノ要點ハ、九月
二十七日ニ先ツ抽象的ノ指令ガアツ
タ、十月四日ニ政事公民の自由制限除
去ニ關シマスル覺書ヲ受領シ、十月十
六日ニ詳シイ具體的ノ指令ヲ受領シ
タ、映畫ノ民主主義國トシテノ重要性
ニ鑑ミテノ處置デアラル、本件ニ關シテ
ハ度々聯合國最高司令官ト話合ヲ致シ
マシタ結果、映畫ノ檢閲及ビ指導ニ付
キマシテハ、之ヲ全部聯合國軍ノ方デ

受持ツコトニ決リ、日本政府ハ何モヤ
ラナイコトヲナツタ、此ノ新事態ニ對
シマシテ政府ハ日下必要ト認ムル新法
律ヲ立案中デアラル、又同委員カラ映畫
法ハ國民文化進展ノ爲映畫ノ健全ナル
發達ト云フ立派ノ目的ヲ持ツテ居ツタ
ニモ拘ラズ、本法ハ取締及ビ制裁ニ重
點ヲ置キ過ギタル結果、育成ト云フ點
ニ對シテ不備デアツタ、此ノ缺點ノ改
正ノ必要ガアツタコトデアリマス、本
法ノ廢止ニ付ツテ「フィルム」ガ無差別
輸入サレ又劇映畫ノミガ氾濫スル心配
ガアルヤウニ思フ、文化映畫ノ普及
必要トスル、良イ「フィルム」ヲ造ル、
又映畫業者ニハ如何ハシイ者モアル、
温キ手ヲ以テ之ヲ善導シテ貰ヒタイ、
常設館ノ現状等ハ當局ニ於テ常ニ能ク
見テ置イテ貰ヒタイ、子供映畫觀覽等
ニ付テモ問題ガアル、只今迄ノヤウニ
警官ノミニ委セテ置クノハ宜クナイ、
衛生上ニモ問題ガアル、教育映畫ヲ大
ニヤツテ貰ヒタイ、文部省ノ映畫ノ
豫算ハ少ナ過ギタイ、本法第一條ノ目
達成ノ爲ニハ代案ヲ早ク作ツテ貰ヒ
イ、之ニ對シテ文部大臣ヨリ本法ハ廢
止サレマスガ、映畫ノ重要性ハ之ヲ
分重ク考ヘル、獎勵助長スル、教育映
畫協會ノ會長ヲ自分ハ辭メタケレド
モ、本協會ノ活動ニ對シテハ大ニ願
目ヲシ、又助長モシタイト考ヘテ居
ル、役人ガ會長ヲヤル位ナラ官ガ自分
デアル、民間ノ專門家ニ委ス方ガ可分
リト信ジテ、斯ク云フ風ニシタノデア
リ、豫算ノ點ニ付テハ十分努力シ
イ、又文部政務次官ヨリ本法廢止後ハ
優良映畫ノ選奨ニ付テ此ノ度其ノ委員
會ヲ改メテ大ニ力ヲ入レタイ、文
化映畫ノ濫造ノ弊モ之ヲ認メテ居ル、
質ノ向上ヲ圖リタイ、子供ノ一般映畫
ノ觀覽ハ自ら不適當ナ映畫モ出來ルデ
アラウシ、衛生上ノ問題モアル、大
事ナ問題テ本法廢止ノ曉、之ニ對シテ善
處シタイト考ヘテ目下研究ヲシテ居ル

- 議長(公爵徳川國順君) 三案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部問題ニ供シマス、三案全部委員長ノ報告通りテ御異議ゴザイマセスカ
- 議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス
- 子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
- 子爵秋田重季君 贊成
- 議長(公爵徳川國順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ
- 議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス
- 議長(公爵徳川國順君) 三案ノ第三讀會ヲ開キマス、三案全部第二讀會ノ決議通りテ御異議ゴザイマセスカ
- 議長(公爵徳川國順君) 御異議ナイト認メマス、次回ノ議事日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日は是ニテ散會致シマス
- 午前十四時四十五分散會